

# 英国ウェールズ高校生留学プログラム 報告書

訪問先： 英国ウェールズ

期間： 令和6年8月17日（土）～8月25日（日）



## 目 次

現地研修日程				・ ・	1
報 告 書					
学校法人別府大学明豊高等学校	1年	麻生	和歩	・ ・	2
学校法人別府大学明豊高等学校	2年	佐藤	美來	・ ・	6
大分県立別府鶴見丘高等学校	2年	幸	明日香	・ ・	11
大分県立別府翔青高等学校	2年	椛田	れりあ	・ ・	15
大分県立別府翔青高等学校	3年	秋月	祈り	・ ・	20
別府溝部学園高等学校	3年	赤峰	琉生	・ ・	24

## ウェールズ 高校生短期留学プログラム 研修日程表

日	月日曜日	訪問先（発着）	現地時刻	研修日程
1	8/17（土）	別府市役所発 大分空港発 羽田空港着 羽田空港発 ヒースロー空港 着	05:30 07:35 09:15 13:05 21:00 頃	参加者市役所駐車場集合出発    空港近くホテルチェックイン
2	8/18（日）	ホテル発 パディントン駅着 バス別府友好協 会）メンバーと合流 ロンドン市内視察 パディントン駅発 カーディフ駅着	08:00 09:06 09:30 14:45 16:35	空港発パディントン駅へ パディントン駅→オックスフォード駅へ→リージェン トストリート→ピカデリーサーカス→ナショナルギャ ラリー→テムズ川→国会議事堂→バッキンガム宮殿→ パディントン駅（地下鉄、徒歩） GWR(Great Western Rail Way)にてカーディフへ 駅にて学校職員と合流（各 HS 先へタクシーにて移動）
3	8/19（月）	ホームステイ宅発	8:00 AM PM	各自学校へ 英語学習：オリエンテーション 校外学習（Cardiff City Centre Tour） 各自ホストファミリー宅へ
4	8/20（火）	学校 カーディフ市内	AM PM	英語研修 校外学習（Cardiff and Vale College ,Cardiff Museum）
5	8/21（水）	ホームステイ宅発 バス訪問	8:00 AM 14:30	学校発 専用車にてバスへ バス市内視察（Roman Bath・Royal Crescent） バス市長表敬訪問 専用車にてホストファミリー宅へ
6	8/22（木）	学校 カーディフ市内	AM PM	英語研修 校外学習（Welsh Parliament）
7	8/23（金）	学校 カーディフ市内	AM PM	英語研修 校外学習（Cardiff Castle, Principality Stadium）
8	8/24（土）	ホームステイ宅発 ヒースロー空港 発	07:00 13:00	宿泊施設発、専用車にてヒースロー空港に移動
9	8/25（日）	羽田空港 着 羽田空港 発 大分空港 着 別府市役所着	10:55 14:45 16:15 18:00	

# 【バース市について】

学校法人別府大学 明豊高等学校 麻生 和歩

私達は今回の研修で別府と姉妹都市であるバース市を訪れた。そこでは様々な発見をして自分の成長に大きい影響を受けた。

## 1. 風景の違い

The 和風と呼ばれる日本とThe 洋風と呼ばれるバース(イギリス)の違いは明らかなものだった。どこか落ち着きを感じさせる日本の建物とは反対に、明るく、優雅な雰囲気に満ち溢れていた。私はこの明確な違いと普段味わったことのない体験を全身で感じ、感動・興奮していた。しかし、その裏側には綺麗な風景を保つために汚染されていた水や地面を埋め立てたという歴史が残っていた。



## 2. 市長表敬

私達はバース市の市長室に訪問し、副市長や元市長らと会談(上記右側の写真)をしながら交友関係を強めた。元市長さんは「ようこそ来ていただきました。ここの温泉数はそんなに多くはないのですが源泉量はとても多いです。」とおっしゃっていた。私はこの言葉から源泉量がどのくらいなのだろうと疑問に思い、インターネットを用いて調べてみたところ、1日に100トンもの湧出量であるということが分かった。そして、市長室に来た証拠である書に名前を書き残した。そこには現天皇の署名もあり、感銘を受けた。

## 3. まとめ

バース(イギリス)は想像よりも綺麗で神秘的な都市(国)だった。文化も違えば建物も違ったが、様々な経験が私の自信につながり、成長のための1歩をふみだすことができた。この思い出を忘れることは絶対にならないだろう。

# 【学校訪問】

学校法人別府大学 明豊高等学校 麻生 和歩

私達は8月19日から8月23日までカーディフ市の Celtic English Academy に通った。

## 1. 幅広い生徒達

私が授業を受けたクラスでは18歳や29歳などの様々な年齢層が集まっていた。

生徒たちの服装は私達のような制服ではなく、私服だった。他にも日本と違うところはたくさんあったのだが、中でも衝撃を受けたのは授業中の飲食や途中参加だ。

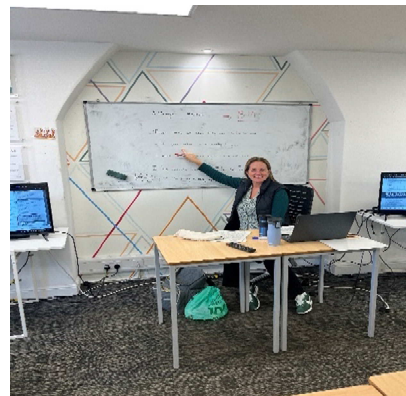
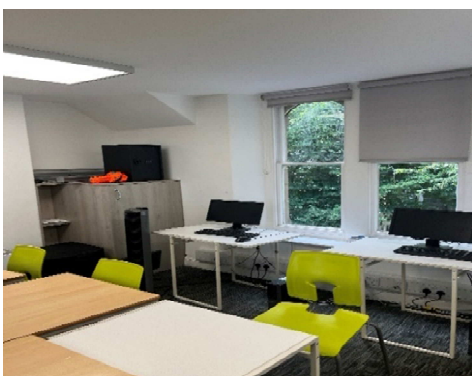
珈琲や木の实のようなものを食べている生徒がほとんどで先生も何も言わず授業を進めている。教室では珈琲の「ズズズ」という音が一面に響いていた。授業の2限目の時ある生徒が教室に入ってきた。彼は謝罪をせず席に座り、先生もそれを許していたのだ。少し羨ましいと思いつつ、私は衝撃を受けながら、(日本でこんな行為をすれば先生に失礼だし、間違いなく怒られるだろうな。)と感じていた。学校の大きな違いを改めて実感した。

## 2. 授業スタイル

私が受けた授業ではグループディスカッションが非常に多かった。毎回同じメンバーでグループを作るわけではなく、毎日毎日交代制で様々な生徒と関わり、交流を深めた。先生と生徒の距離も非常に近く、友達のような関係性でお互いが楽しく授業を受けていた。基本は教科書を使って授業をし、日本のように文法や単語に取り組んだ。

## 3. 授業時間や休憩時間の過ごし方

私達の学校は朝の8時から16時まで開いており、(学校の開閉時間は日本とあまり変わらないのだな)と感じていた。だが、授業の流れは全然違っており、8時40分から授業が開始し、10時20分まで授業、20分休憩、そして10時40分から12時までの午前中授業だった。1コマ〇分というものは決められておらず、休憩も1回(しかし、時間が長い)だった。私は、(だいぶ長い休憩時間の中、生徒たちは何をしているのだろう)と疑問を持ち、しばらく彼らを観察していた。するとほとんどが別の棟にあるカフェテリアで過ごしており、珈琲やパンなどを買いながらリラックスしていた。私はカフェテリアがあるという事実には衝撃を受けたのだが、(ここが学校での休息場所で、生徒たちが安心して過ごせる快適な空間なのだ)と思い、学校の配慮に心が温かくなった。



# 【成長への大きな一歩】

学校法人別府大学 明豊高等学校 麻生 和歩

## 1. 私の研修目標

私の研修目標は「新しい世界を見て、色々なことを発見する」だった。

私は海外へ行くことが今回初めてであり、実際に行ったら混乱するのではないか、大丈夫だろうかと心配していたのだが、実際に行ってみるとそこは毎日がワクワクとドキドキで満ち溢れており、いつの間にか私の心からは「心配」という気持ちが消え、「自信」という感情が芽生えていた。もともと私は海外へ行くことに興味津々というわけではなく、「勧められたから行く」といった生半可な理由で参加したのだ。しかし、今では私に勧めてくれた家族や先生方に感謝の意を示したいと思う。なぜなら、その「生半可な理由」で海外へ行ったことでたくさんの経験・自身…そして、自分で物事を決め、判断する能力がついたからだ。この海外研修は私にとって大きな成長のピースとなり、同時に絶対に忘れない大切な思い出となり、いつまでも受け身ではなく一歩踏み出してくれるきっかけとなってくれた。

## 2. 事前の準備

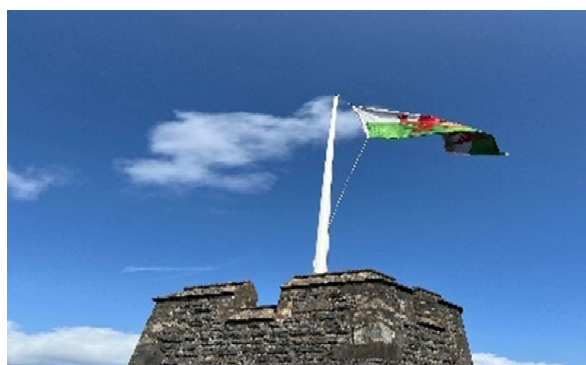
私は発音と単語に自信がなかった。しかし、この研修のおかげで少しずつ自信がつき、英語を「楽しい」と感じるようになった。その一方で現地の方たちの英語レベルの高さを実感し、うまく会話できない自分に悔しさと苛立ちが常にあった。この出来事を経験してからもっとうまくしゃべれるようにスピーキングに力を入れようと思った。

## 3. 成果

この研修を通して、日本にいただけでは気付けない海外の文化や人々の習慣、人柄を学ぶことができ、新しい視点をたくさん持つことができた。そして、日本には日本のよさ、海外（イギリス）には海外の良さがあるということを知った。改めて私はこの研修に参加して良かったと思う。なぜなら、この経験を通して新たな自分を見つけられたと思うからである。

## 4. 課題

私はこの研修を通して事前に調べた情報量がすくなかったことを実感した。海外での支払いの仕方やルール、マナーなどの詳しい箇所を深く調べず、現地で苦戦したことが何度かあった。そして自分の国のことをうまく説明できず戸惑った時もあった。英語で話すために英語力をもっと身につけなければならないということも分かったが、その前に相手に伝えたいことを分かりやすく端的に、自分で要約しなければならないということも身に感じた。まずは要約力、英語力を身につけていきたい。



## What we learned from England

Aso Kazuho, Meiho high school

I went abroad for the first time in my life.

There, I had many experiences, new encounters, and farewells.

I went to London on the first day and enjoyed seeing the famous London bus and the scenery unique to the West.

These events excited me so much that I forgot about the pain of the long flight.

Over the course of a week, I realized that British people are very gentlemanly and friendly. When we were in trouble, they helped us by saying, "Are you okay?" I will never forget the memories of this time. We had a fulfilling day!

## 【現地研修】

学校法人別府大学 明豊高等学校 佐藤 美來

私たちは今回の研修でウェールズを訪れました。そこは日本の常識では考えられない驚くべき経験がたくさんありました。

### 1. 国立博物・美術館の入館 無料制度について

私たちはロンドン市にあるナショナル・ギャラリーを訪れました。美術館の外観は緻密なデザインでとても素敵でした。何よりも驚いたのが入館料無料で、しかも写真撮影がOKだったことです。入館料を有料にすればお金を稼ぐことができるのに『なぜ、無料なのか。』と疑問を持ちました。すると在住の日本人ガイドの方から『アートはみんなのものであり、上流階級の人たちだけが楽しむのではなく、みんなに平等に開放されるべきだから』と説明を受けました。

1997年に、政府は本来入館料で得られるはずであった収入源を政府の予算で補填し、入館料を無料にすることを政策として打ち出し、2001年には全ての来館者に対して無料となったそうです。国の補助金・館内のショップや飲食店・企画展のチケット料金・寄付・施設外のイベントや研究などへの協力や提携に対する報酬などを収入源として運営が行なわれているそうです。美術・博物館好きにはたまらないシステムですね。

その他にも私たちはビッグベンやバッキンガム宮殿など多くの観光地を訪れました。その中でも私が1番印象に残っているのはバース市にある The Roman Baths(ローマ浴場博物館)です。

1987年に世界遺産に登録された当館は、地下から湧き出た温泉を利用した公衆浴場跡です。現在は、入浴することは禁じられていますが今でも温泉が湧き出ているところを見ることが出来ます。この博物館のすごいところは、遺跡の上に今の建物を建てているため、建物の中にながら公衆浴場の遺跡を見ることができるのが最大のポイントですね。また、Terrace(テラス)には歴代のローマ皇帝の像が置かれているのも面白いです。別府市の温泉と何か不思議な縁を感じました。



ローマ式の大浴場『ローマン・バス』



## 【学校訪問】

学校法人別府大学 明豊高等学校 佐藤 美來

### ① Cardiff and Vale College

私たちは、現地研修でカーディフ市内にある大学の中で4番目に大きいカーディフ・アンド・ベール大学（Cardiff and Vale College）に訪問しました。

#### 1. 幅広い分野で学べる

この学校は大学という名前ですが、日本でいうと高校・大学・短大、そして専門学科が一緒になった学校です。16歳から19歳の子が主に通う学校で専門学科も多くあります。この大学では、美容師・料理・ファッション・演劇・Eスポーツ…などたくさんの幅広い分野を学ぶことができます。そして、なんといっても魅力的なのが、充実した実習制度です。具体的には、美容師を目指して勉強している生徒が実際にお客さんの髪をカットしたり、料理を勉強している生徒、がレストランで料理を提供したりなどできます。

この学校で勉強しながらキャリア実践ができることも、大変良いと思いました。

また、今のキャリアを変えたくて一から勉強をする社会人の方が多くいることを知りとても驚きました。『勉強』はいくつになっても挑戦したり、やり直したりする環境が整っていることに感動しました。

#### 2. 手厚いサポート

社会人の方はお仕事を、学生の方はアルバイトをしている方が多くいます。そんな忙しい中で、『勉強と仕事は両立できるのかな？』と疑問に思いましたが、カリキュラムの中で仕事をする時間と授業を受ける時間をしっかり確保されているそうなのでとてもすごいなと思いました。また、大学に行かずに就職を考えている人たちのためにある進路相談室が完備されており、就職に役立つ情報や就職の斡旋など、先生方が親身になって相談に乗って下さる点も、安心して学校に通うことができると感じました。



## ② Celtic English Academy

私たちは8月19日から8月23日までの5日間、カーディフ市にあるケルティックイングリッシュアカデミーに通いました。

### 1. 少人数制のクラス

事前に行われたクラス分けテストで自分のレベルに合ったクラスの授業を受けました。私のクラスは生徒数約10人と先生一人の少人数でした。少人数なので、自分の意見を主張しやすく授業を受けていてとても楽しかったです。クラスには、いろいろな国の方がいて日本では味わえない雰囲気を感じることができました。

学校には、カフェや食事をする場所があって価格も学生さんに優しいお手頃な感じでたくさんの生徒さんが利用するそうです。先生方は、私たち日本人があまり英語を上手く話せなくても何を伝えようとしているのかを理解しようと簡単な英語で問いかけてくれたりしました。手厚いサポートのおかげで楽しく授業に参加することができました。



### 2. 授業を受けた感想

私は、もともと英語はあまり得意ではなく、リスニング以外本当に何もできません。初めて学校の授業を受けた時、最初本当に何を言っているのか一回で聞き取れませんでした。家に帰っても英語で会話し、ショッピングする時も英語で、学校に行っても英語の生活を送っていたら自然と英語を聞き取れるようになっていきました。今でも流暢に英語を話せるわけではないですが、部活の先生（アメリカ人）が何を言っているのか一回で聞き取れるようになりました。この短期間で、ここまで成長できたのはとても嬉しかったです。

# 【海外派遣に参加して】

学校法人別府大学 明豊高等学校 佐藤 美來

## 1. 私の研修目標

私の将来の夢は、具体的には決まっていません。でも大好きな英語を生かし、観光業に携わりたいと考えています。英語力をさらに磨き、自国だけでなく他国の文化や価値観を学び、より広い視野を持てるようになるために今回の研修に参加しました。知りたいことや、分からないことをどんどん聞いて、積極的に自分の世界を広げることを目標にしました。

## 2. 研修前にしたこと

私は、研修に参加するまでに、少しでも自身が苦手とする英語の筆記力を身につける事を心がけました。出発するその日まで、一つでも多くの単語を覚え、文法を復習しました。学習を続けるうちに「苦手」だと決めつけていた自分に気づき、分からなかったところがどんどん理解できるようになっていきました。苦手だった筆記に自信が持てるようになってくると、自然と英会話も上達し、部活の顧問のアメリカ人の先生とも積極的にコミュニケーションを取ることができるようになりました。

## 3. 現地研修で感じたこと

私のホストファミリーはイギリス訛りの発音で、初日は何回か聞き返してしまいました。アメリカの方の発音とイギリスの方の発音にはこんなにも大きな違いがあるのかと衝撃を受けましたし、またイギリスの中でも地方によって大きく差があるそうです。アメリカの方は「R」の発音が強いのですが、イギリスの方は「T」の発音が強いため、同じ単語でも発音が異なり、聞き取りが難しいというのが第一印象でした。それでもホームステイをしているうちに段々と聞き取ることができるようになったのが嬉しかったです。

カーディフで体験入学をした学校ではいろいろな国の生徒さんがいて驚きました。英語を流暢に話せる生徒さんが多く、私もついていけるように努力をしました。どうしても聞き取れない時やわからない時は近くにいる生徒さんや先生が優しく分かりやすく教えてくださったお陰で、本当に楽しく授業に参加できたことが印象深く心に残っています。



## What I learned from studying abroad

Sato Miku, Meiho high school

Although it was short period of time, I had a lot of very good experiences. It was my first time going abroad, so I was very excited. I felt that I was able to experience a different atmosphere from Japan. I would like to share what impressed me the most.

First, I visited Cardiff and Vale College. I learned that I could study a wide range of fields at that college. Actually, I had never been interested in Japanese universities or overseas universities. This made me want to study more and go to university!

Second, the homestay was surprisingly fun. I was very happy to be able to talk to my host family a lot. On the first day, I wasn't good at talking, but thanks to my kind host family, I was able to ease my nerves and actively communicate. Our host family taught us about food culture and traditional things. It also had a great influence on my future. Thank you very much.

.

# 【現地研修】

大分県立別府鶴見丘高等学校 幸 明日香

今回私たちは、別府市の姉妹都市であるイングランドのバース市と大分県が「友好と相互協力に関する覚書」(MOU)を締結しているウェールズのカーディフを訪れた。バースでは、ローマン・バスを訪れ、カーディフでは Cardiff and Vale College という学校を訪れた。

## 1. ローマン・バス

ローマン・バスは世界遺産にも登録されるほど有名な浴場跡だ。ここでは、お湯に浸かることはできないが日本の固定電話のようなものを受付でもらい、音声ガイドをしてくれるというサービスがあった。観光客が皆電話をしているかのように面白く感じた。

また、バースと別府の共通点を学ぶこともできた。現在はお風呂は使用できないが、昔の人々はこのお風呂を使っており今の私たちがこれらをみれているということに感動した。



## 2. Cardiff and Vale College

この学校は、まるでショッピングモールかのように広がった。中には、映画館やジム、レストラン、美容室などがあった。これらはこの学校に通っている生徒が運営しているとのことだった。レストランや美容室は、一般の人も利用できると聞いて驚いた。この学校を見学して、外国の学校の在り方の多様性を学ぶことができた。日本では、あまりないであろう専門学校の集まり。この学校では、芝生のグラウンドを一般の方に平日は開放をしている。Cardiff and Vale College は地域と一緒に成り立っている学校だと感じた。

## 2. 電車通学

私は、学校からホームステイ先が遠方だったので、通学は電車を利用した。その中で驚いたことがあった。利用者の少ない駅には改札がないということだ。電車内で車掌さんがチケットやスマホのバーコードを読み取っていた。車掌さんが一人一人回って行くが、次々駅につき人が乗り降りするので、運賃を回収できていないのではと思ったが、それも国民性なのだろう。皆がきっちりと払っていることが読み取れた。

# 【学校訪問】

大分県立別府鶴見丘高等学校 幸 明日香

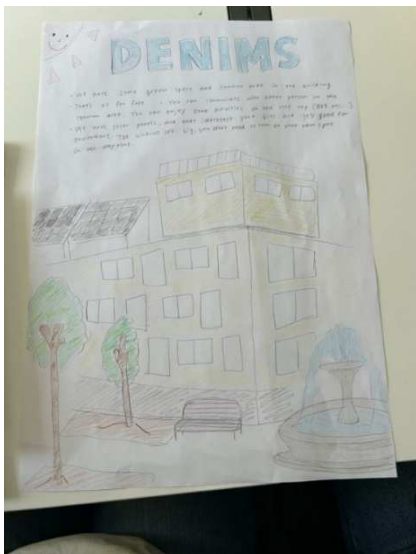
私たちは4日間、ケルティック・イングリッシュ・アカデミーに通った。

## 1. 授業内容

初めて外国の学校に通うので、授業の内容が楽しみだった。最初の授業は、“R”の発音の仕方の授業だった。最初に動画を見て、みんなで口の形などを真似しながら発音練習をした。日本の学校での英語の授業では、発音良く言えるけど恥ずかしいから言わない。という人が多数いるはずだ。しかし、この学校では日本人も含め、たくさんの人が恥ずかしがり、怖がることなく発音していた。先生も間違ってもいいからと言っていた。そこに私は、面白さ楽しさを感じた。さらには、イギリス英語とアメリカ英語の違いを知ることができた。以前から、違いがあることは知っていたけど、具体的にどんな差があるのか知らなかった。今回は建物の呼び方の違いとスペルの書き方の違いを知ることができた。私が一番楽しかったことは二つある。一つは、ペアワークだ。自分のことや自分の街のことを英語で紹介するのが楽しかった。完璧な英語で喋ることはできなかったが、楽しみながら話すことができた。もう一つは、理想の家づくりだ。最後の日は、テストをして、二つのグループに分かれて家づくりをした。ポイントを作って、より良い家になるようグループのメンバーと話し合った。環境のことを考えたり景観のことを考えたりした。普段の英語の授業では、体験できないようなアクティビティをして本当に楽しかった。

## 2. 学校の様子

学校が3校舎に分けられていることに驚いた。普通の家のような外観だが、中に入ってみると、教室が何個もあり学校だった。また、キッチンルームがあることにも驚いた。ここでは、電子レンジが使える、ピアノが弾けたり、くつろげたりする部屋だった。生徒は、ここで会話を削いたりご飯を食べていた。英語でコミュニケーションできる場があることは、英語上達に良さそうだと感じた。



# 【海外派遣について】

大分県立別府鶴見丘高等学校 幸 明日香

## 1. 私の研修目標

私の研修目標は、他国の文化を体で感じ、英語で積極的にコミュニケーションを取ることだった。私の将来の夢は、国際的なスポーツ大会を作り上げる人になることだ。そのためには英語力が必要である。今の自分の英語力で、どのくらいコミュニケーションが取れるのか。だから、とにかく『自分から積極的に英語で話す』という目標を持ち、この海外派遣に参加した。

## 2. カーディフ、バースでの体験

カーディフやバースでは、現地巡りをする中で、建物の歴史や、作られた理由などを学ぶことができた。私が最も印象に残っていることは、カーディフ城に行ったことだ。見学をしてみると、使っていた時の部屋の作りや、なぜ今は一般公開されているのかを知ることができた。また、ガイドの先生と2人で話す時があった。その時には自分から英語で話すことができたと感じている。お城の岩は全てウェールズのものか、好きなスポーツは何かなど、積極的に質問ができ、少々の文法的な間違いはあったものの会話をすることができた。なので、カーディフ城に行ったことが一番深く印象に残っている。また、駅では電車がわからない時に一般の方に話しかけて聞くこともできた。以前の私だったら絶対にできないこともできるようになった。

# 【派遣の成果と今後の課題】

## 〈成果〉

この派遣を通して、英語で話す楽しさと簡単さを身にしみて学ぶことができた。英語で話すことは、スピーキング能力でもなく、最終的にはマインドということをしっかり心に刻めた。

## 〈課題〉

この派遣を通して、いくつかの課題が見つかった。ボキャブラリーの少なさだ。これが言いたいと思ってもすぐに言葉が思いつかず、言葉に詰まってしまうことが多々あった。今後は、より円滑に英語でコミュニケーションを行うために、単語を勉強していきたいと思った。

## What I learned and Experienced from studying abroad

Yuki Asuka, Tsurumigaoka high school

I had a wonderful experience in Bath and Cardiff this summer. I visited many places in Cardiff and Bath and learned and experienced their historical background and beauty.

I learned some things from this training. One is the diversity of schools. I was surprised when I visited the vocational school. I felt that the school was being built together with the local people. The other is the importance of taking an active approach to study English. I discovered the joy of speaking English because I was able to speak English actively.

I went to Celtic English Academy for four days. I made friends and enjoyed classes. I especially enjoyed the pair work and group fighting classes. There were three Japanese students in my class, and they all speak fluently in English. I wanted to be like them. However, I realized that I needed to improve my vocabulary.

From now on, I should study hard vocabulary and do my best to achieve my dream of becoming someone who creates international sports tournaments, and I want to tell all of person who take part in this training like friends, teacher.



# 海外派遣について ～英国の地で過ごして～

大分県立別府翔青高等学校 椛田 れりあ

## 【私の研修目標】

ウェールズに派遣での私の目標はウェールズの歴史、文化、環境について学び、日本との違いやその理由を理解することでした。そして、現地の人たちとコミュニケーションをとることで英語能力をつけることも目標にしていました。

## 【事前研修】

予め、ウェールズでの伝統的な言葉や国家、建築などの調べ学習をしました。また、別府市の伝統や、温泉について、簡単ではありますが英語で話せることができるように頭に入れていました。

## 【Celtic Ennglish academy での学び】

英語のみで会話、勉強という少しハードルの高い授業を受けました。多少の訛りがありましたが、日本で英語の勉強をするよりもより、ネイティブな英語を聞きながら、会話することで英語力の向上を感じました。いろいろな国の生徒たちと話しをして日常英語を学ぶだけでなく、その国の文化や歴史についても授業で扱っていただき、多種多様な発展の仕方を知りました。初めは慣れない英語だけの授業であまり話せずに落ち込みました。しかし、先生や生徒のみなさんが優しく、丁寧に話しかけてくれたので3日ほど経つと積極的にコミュニケーションをとることができ、会話の中での笑顔も増えました。

## 【成果と今後の課題】

### 《成果》

約10日間留学をすることができ、身についたことは何事にも果敢に挑戦する力です。

英語が上手く伝わらなくても諦めずに説明し続けました。また、いつもの生活と違って友達と協力して自分たちだけで登校したり、ホストファミリーとの会話をしました。そして、知らない道を歩き回りながらその土地の地形や建物の特徴を見て知ることができました。

### 《課題》

実際に現地の人たちと会話をして、自分のコミュニケーション能力や英語への理解、日本の文化についての理解に疎いと感じました。



# 現地研修 ～英国について～

大分県立別府翔青高等学校 椛田 れりあ

私は英国を訪れ、驚いたことや感じたこと、街の特徴について学んだことをまとめました。

## 【建 物】

建造物は燃えにくくするため木造ではなく石造でした。

1番驚いたのは、階数が0からで、ホテルのフロントなどは、0階にあることでした。日本でいう2階が1階という表記になっており、間違えて1階に行ってしまったことが多々ありました。

そして、ロンドンのほとんどの家に半地下があることを知りました。

### <家の構造>

最上階 : ハウスキーパーの部屋

その他の階 : 家の持ち主の部屋

半地下 : キッチン

### <半地下がある理由>

理由1 : 綺麗な街並みに汚物が通る下水管を見せないようにするため

理由2 : 昔、半地下はキッチンやハウスキーパーが食事をするところに使用されていたため。

英国の街の美しさは、人々の知恵があってこそのことなんだと実感しました。



ハウスキーパーと主の使う階段、扉が違い、扉が2つある部屋があり、日本では見ない光景で映画の中に行った気分でした。

## 【気候・環境】

夏でも涼しく、8月でも10~20°Cが基本です。

乾燥していて逆剥けや唇の乾燥がすごかったです。

天気が変わりやすく、急に大雨が降ったり晴れたりします。私は常にウィンドブレーカーと傘を持ち歩いています。

1番驚いたのは21:00になっても日が暮れずに明るかったことです。夜が短く感じました。

## 【交通】

ラウンドアバウトがたくさんあり、異世界でした。しかし、自然とうまく調和していて、不思議な光景でした。主に無料高速道路のような道を通っていてスムーズでしたが、夕方は渋滞していました。

車両用、自転車用の信号もあり、歩行者信号がなかなか青にならず遅刻しそうになることもありました。車両優先であり、歩行者がわたる時間は10秒ほどだったことに驚きました。青になってすぐにカウントダウンが始まり、最初は焦りました。現地の人たちは待ちきれずに信号無視が当たり前になっていて、大胆だなと感じました。

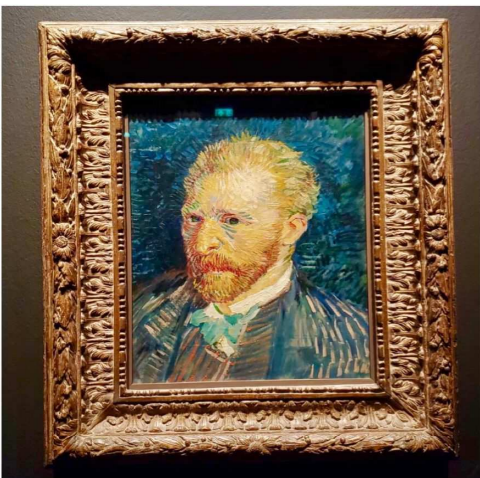
標識には英語とウェールズ語で書いているものもあり魅力的でした。

# 学校訪問 Celtic English Academy に通って

大分県立別府翔青高等学校 椛田 れりあ

私たちは8月19～23日までの5日間ウェールズの首都のカーディフにある Celtic English Academy に学習に行きました。

一つのクラスに最大人数が10人という少人数学級で自分のレベルに合った授業を受けられることが特徴です。



人気の語学学校で、いろいろな国から留学生が来ていました。短期留学の人や大人がたくさんいて驚きました。校舎が小さく、それぞれの塔に暗証番号がありました。

授業は全て英語で行われ、訛りもあったため最初は全く聞き取れず、授業についていけなく落ち込みました。しかし、先生や生徒のみんなが優しく、わかりやすい言葉で話してくれたおかげで段々と自分も積極的に発言できるようになりました。

そして、多国籍の人たちと触れ合うことで、イギリス以外の文化も知ることができました。海外の人たちが、自分たちの国の文化を流暢に話す姿を見て、私ももっと日本の文化を知りたい、話したいと感じ、理解を深めたいと思いました。

また、ケルティックには日本の方がたくさん通っていて、その人たちが自主的にコミュニケーションをとることができていたので、すごいなと思い憧れました。より英語学習に取り組みたいと感じました。

学校がお昼に終わると、私たちはカーディフ市内の見学に行きました。

学校の近くにある美術館にはモネやゴッホの絵がたくさん飾られていました。歴史的な絵を見ると色使いや雰囲気は全く違い、感激しました。ゴッホの絵は特に青色が深く綺麗でした。間近で見られることは本当に貴重なので良い経験になりました。



## What I learned from the UK training

Kobata Relia, Beppushosei high school

This experience was very valuable. I'd like to introduce three things that surprised me when I went to UK.

First, There is a historical heritage within the city. Cardiff Castle is located in the center of the city and is a beautiful combination of modern and ancient times.

However, it was a very strange sight as there was no sense of discomfort. I learned that British people value history and culture.

Second, it's bright until late at night. It was bright until around 9 p.m., making the night feel very short. Due to its high latitude, it's said to be bright until night in summer. I found it interesting that the weather and climate differ depending on the environment.

Through this training, I was able to interact with many people. I realized once again that it is thanks to the people around me that I was able to have such a valuable experience. I want to remember to be grateful and utilize what I learned in the UK in the future.

## 【現地研修】

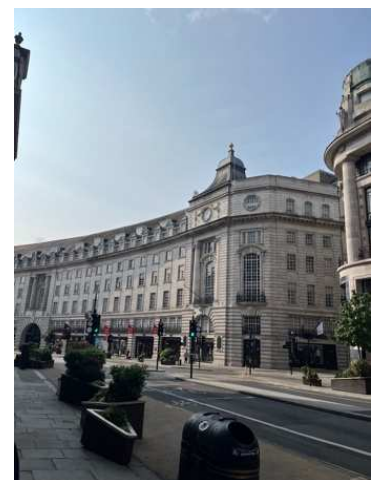
大分県立別府翔青高等学校 秋月 祈り

私は1日ロンドンを観光し1週間ウェールズのカーディフに滞在しました。ロンドンでは美術館やビッグベンといった有名なところを訪れ歴史や文化について学ぶ事ができました。特にロンドンの街並みは美しくそれはどこも歴史が詰まっていることもわかりました。

カーディフでは実際にホームステイ、現地の学校に行き、観光をしたことでたくさんの知識が増えました。ホームステイでは、ホストファミリーと過ごし現地の人がどのように暮らし生活をしているのかを自ら体験する事ができました。特に驚いたことは靴を脱がずに家に入ることと食事面に驚きの連続でした。現地の学校では英語力だけでなく多文化についても知る事ができました。いろんな国の人がいる事により日本との違いを知る事だけでなく文化について理解し受け入れられる事ができました。観光をすることでウェールズにはたくさんの歴史があり、また世界遺産もたくさんある事がわかりました。

別府市との姉妹都市であるバースではローマンバースに行きウェールズやバース市だけでなく世界中の歴史を知る事ができました。また、歴史だけでなく昔の人がどのような暮らしどのように世界中の人と関わっていったのかを知る事ができました。ウェールズの街並みは美しく日本との違いがたくさんありどれも歴史が詰まっていることがわかったし、訪れる場所全てが今まで見たことがないようなことばかりでした。英語の面では自信はありませんでしたが現地の人と関わり、たくさん話す事によって自分の英語力が鍛えられました。

また学校やホームステイで、すべて英語で喋ることにより自分の表現で伝える大切さと英語の難しさを改めて知ることができました。現地研修を通して自分には何が足りず何を理解すればいいかわかったし、現地に行くことでしかわからない経験や学びを深めることができました。もしまたウェールズにいける機会があれば歴史をもっと学び英語力をのばして今回訪れたときよりもいろんな経験ができるようになりたいです。



## 【学校訪問】

大分県立別府翔青高等学校 秋月 祈り

私は1週間カーディフにあるケルティックイングリッシュアカデミーに通いました。そこではたくさんの方の経験をすることができ色々な国の文化に触れることも出来ました。また日本の学校との違いについても知ることができました。

1つ目はクラスの人数です。9人ととても少なく先生の話が聞きやすく授業がとてもスムーズに進んでいきとてもわかりやすかったです。2つ目は授業中です。みんなが発言したい時に発言をし先生はそれに対して反応し受け入れているところに驚きました。また授業中にはコーヒーや水を飲んだり日本の学校では禁止されていることもやっていたので日本との違いだと感じました。3つ目は文化の違いです。私のクラスにはサウジアラビア人とドイツ人がいました。1番印象的だったのはサウジアラビアの女性と一緒に写真を撮るのでなく撮ってくれたことです。なんで一緒に写真を撮れないのか調べてみるとサウジアラビアの女性と写真を撮らないといけなく書いていました。またその写真をSNSに投稿すると捕まってしまうと書いており驚きました。これは日本との文化の違いだと感じました。

私はこの学校で日本との違いを学んただけではなく英語の重要性を改めて感じる事が出来ました。私は実際、高校で英語を専門的に学んでいますがいざ授業に参加してみると自分の積極性が足りないのと同じぐらい英語力の低さを痛感することができました。積極性の部分ではクラスみんな自分から積極的にコミュニケーションを取っていましたが私は自分からコミュニケーションを取らずにただ話しかけられるのを待っているだけでした。また授業中にも自分から手をあげたり、発言するのではなく先生に当てられた時だけ発言をするだけでした。英語力の低さではスピーキングの低さを痛感しました。質問の内容は分かっても何て答えていいか分からず答えたとしても文法が滅茶苦茶なので相手には伝わらないことが多かったです。けどリスニングの力はついたと感じています。今まではなんとなく分かっていたけど理解するまではいするまではできませんでした。けど授業やペア学習として相手の言いたいことや授業内容などを理解し自分なり考えられるようになりました。

私はこの1週間現地の学校に通い自分の弱さを知ることができ成長することも出来ました。また多文化にふれることができ日本との違いを改めて知ることができました。



## 【海外派遣について】

大分県立別府翔青高等学校 秋月 祈り

まず、私がこのプログラムに応募した理由は2つあります。1つ目は2年生の時にあったニュージーランド語学研修に参加することができなかった事です。当日に熱が出てしまい、行くことができませんでした。クラスのみんなが帰国した時みんな楽しそうに話していて聴くのがとても辛かったです。また、みんな英語力をつけていて、みんなとの差を感じました。このことから私も海外に留学したいと思うようになりました。

2つ目は海外にいて自分の足りない部分を見つけそれを少しでも改善したいと思ったからです。私は積極性が足りずいつも話かけられるのを待っているだけです。そんな部分を少しでも克服したいと思いました。また、自分の視野を広げ自分の英語力を伸ばしたいと思ったので応募しました。この研修の目標も同じく自分の足りないものを見つけ改善し、視野を広げ英語力をつける事でした。

私がこの1週間、ホームステイや語学学校で一番学んだことはどうしたら相手に伝わるかを考えることです。私は英語力に自信がなかったのでとても不安でした。だけど簡単な文や単語で伝えたり、時にはジェスチャーを使ったりしてなんとか伝えようとすることができました。また、自分から現地の人や同じクラスの人に質問や考えを伝えることができました。特に授業中のペア学習では相手のわからない問題を教えることができ自分の成長を感じることができました。

私はこの研修の間たくさんの成果を得ることができました。日本とウェールズではさまざまな違いがあり、驚くこともあったけどそれを受け入れ吸収する事により新しい視点で物事を見ることができました。

またホームステイ先では日本語を覚え、しゃべってくれ、私たちを歓迎し受け入れてくれてとても嬉しかったです。この経験は私を成長させてくれ将来の夢につながる経験になりました。

その一方で課題も見つかりました。それは英語力です。どんなに単語やジェスチャーをやっても伝わらない事があり諦めて友達に頼ってしまう事がありました。このことからいままで以上に英語の勉強をし、特に基礎からやらないといけないと感じました。また観光をする中でたくさんの歴史について学びましたがどれも、難しく理解を深める事ができませんでした。まずはその国の歴史や背景を学ばなければならないといけないこともわかりました。日本の歴史や文化についても説明できるように知識を深めなければならないと思いました。

これらのことから私は恥を捨てて自分から相手に積極的に話しかけるような存在になり英語力を今まで以上に付け将来の夢に近づけました留学したいと思います。



## Changed my life and thinking

Akizuki Inori, Shousei high school

I spent a week in Cardiff and had a variety of experiences. This experience has great time for me and giving a lot of influence.

I was most affected by the homestay. This time is a lot of experience that can only be gained by actually living with a host family and to know the cultural differences between Japan and Wales. Although there were many differences that confused me, but the experience had a profound impact on me and changed my thinking in many ways. Also I was worried about my English ability and I would be able to communicate. But my host family and school classmates explained things in simple English. Thanks to this, I was able to enjoy my stay even with my own English skills. I was also very happy to find out that my English skills had improved after spending a week there. I used to think it was difficult when I learnt the importance of talking it easy and communicating, even if it's just a few words. This experience has allowed me to grow and expand my thinking and perspective more than ever before, and has made a difference to my life. I want to continue to study English a lot so that I can tell my future self that this was a great experience. And I would like to study in wales again.

Finally, I would like to say thank you to everyone involved in this study abroad experience. And I want to give back in the future.

# 【現地研修】

カーディフ城・ウェールズ国立博物館・ローマ浴場について

別府溝部学園高等学校 赤峰 琉生

私たちは今回イギリス留学中の現地研修では、カーディフ城、ウェールズ国立博物館、ローマ浴場を訪れることができます。

## 1. カーディフ城、ウェールズ国立博物館

カーディフ城ではウェールズの歴史と壮麗な建築を学び、ウェールズ国立博物館で自然史や美術を体験します。



## 2. ローマ浴場

バースのローマ浴場では古代ローマの温泉文化に触れ、歴史的な遺産を直接感じることができます。これらの名所を巡ることで、イギリスの歴史と文化について深い理解を得ることができ、留学生活がより充実したものになります。



## 【学校訪問】

ケルティックイングリッシュアカデミー

別府溝部学園高等学校 赤峰 琉生

Celtic English Academy での学校研修において、指示詞「this」「that」「these」「those」の使い方について深く学ぶことができました。これらの指示詞がどのように英語のコミュニケーションに重要な役割を果たすかを理解し、実践的に使いこなすスキルを習得することです。

研修の初めに、指示詞の基本的な使い方について説明がありました。具体的には、「this」と「these」は話し手に近い物や人を指し示すために使用されること、「that」と「those」は話し手から離れた物や人を指す際に用いられることが説明されました。例えば、「this book」(この本)は話し手のすぐ近くにある本を指し、「that book」(あの本)は話し手から離れた場所にある本を指します。また、「these apples」(これらのリンゴ)は近くに複数のリンゴがあることを示し、「those apples」(あのリンゴたち)は遠くにある複数のリンゴを指します。

さらに、研修では実際の会話や文脈の中で指示詞を適切に使う練習が行われました。実際の場面を想定して、どの指示詞を使用するかを考えながらグループディスカッションを行い、指示詞の選び方における微妙なニュアンスや使い分けについて深く掘り下げました。このプロセスを通じて、指示詞の使い方がより明確になり、実践的なスキルを身につけることができました。

また、指示詞の使用に関する文法的な規則や、文化的な違いがコミュニケーションに与える影響についても学びました。例えば、ある地域や文化では、指示詞の使い方に微妙な違いがあり、その違いを理解することが重要であることが分かりました。こうした知識は、異文化間のコミュニケーションにおいて、より効果的に意思疎通を図るための基盤となりました。

研修の最後には、指示詞を使った実際の授業シミュレーションが行われ、このシミュレーションでは、生徒たちが指示詞の使い方を自然に習得できるような指導方法を考えることが求められました。結果として、指示詞の効果的な使い方が、生徒たちの英語の理解力や表現力を向上させるためにどのように役立つかについての洞察が得られました。

この研修を通じて、指示詞の使い方に関する理論的な知識と実践的なスキルをバランスよく習得することができました。これにより、今後の英語教育において、指示詞を効果的に使い、生徒たちのコミュニケーション能力を高めるための具体的なアプローチを実践する自信ができました。



## What I thought during my week at Celtic English Academy

Rui Akamine Mizobegakuen High School

During my one-week study abroad at Celtic English Academy, I had the opportunity to enhance my English skills and experience a new culture. The first day included an orientation and a tour of the campus, where I learned about the facilities and the structure of the classes. The curriculum focused on improving conversation, listening, and grammar skills, with particular emphasis on pronunciation and vocabulary.

I also had the chance to learn about local culture and customs through a homestay experience. Staying with a local family allowed me to engage in everyday activities, such as cooking traditional meals together and visiting local attractions, providing me with an authentic glimpse into life in the UK.

Outside of class, interacting with international classmates enriched my experience, as I engaged in conversations with people from diverse backgrounds. Overall, the week was a valuable experience, contributing significantly to my language skills and international awareness.